

「一流になりなさい。それには、一流だと思ひ込むことだ」という本からです
効率は思いやりから生まれる。

整理とは、定物定置。つまり、物は決まった場所に置くこと。整理とは、いらぬものを捨てること。わかったかい？

後輩ができるとうれしくて、つい説教じみた話をしたくなるのは人の常です。少し加減がひどかったかもしれませんが……。机の上に書類を置いて帰っている奴を見ると、なぜか腹が立ってな。定規を持ってきて片っ端から落として帰ったもんだよ」

船井先生は結構な酒豪です。おそらく、50 代までは一升酒なお辞さず、という感じでした。楽しい酒に、満面の笑顔で時が過ぎていくのです。

宮崎市のお菓子の日高主催の、宮崎名物である謝恩講演会で合流し、先方の日高久夫社長一家と飲みながら歓談していた時のことです。「机の上に書類やら本をいっぱい置いて帰る。すると、翌日、その整理から仕事が始まるよね。非効率だ。それでね……」整理整頓は、仕事をするうえでの最低の礼儀だよとよく教えられた。

「誰がその仕事を引き継いでも、すぐすべてがわかる状態にしておくのが、大切なんだ」遠い大阪の自分の机が気になってきます。

どんな人間が、仕事のできる人になるのか、船井会長どうでしょうか？日高社長の質問に、そうだねと盃を空けて先生は答えました。「思いやりのある人ですね。思いやりが効率を生みますからね」効率は思いやりから生まれる。なるほどと思いました。鋏を使う。次に使う人のことを考えれば、すぐ使いやすいように定められた場所に置く。粘着テープを切ったあと、次の人が使うときのことを考えて、しっかりとカッターを拭いておく。次の人のことを考えて。なるほど、それが思いやりだと、合点がいきます。

データブックを使う。使ったまま、自分の机の上に置いて帰れば、次に使う人はその本を探し回ることになる。その時間は、間違いなく非効率そのものです。「効率的に時間を使える人は、そんな躰ができています。他の人に思いやりを示せる人は、自分自身の時間も大切にできますよ」自分を大切にできない人は、他人を大切にできないものです。そして、他人を大切にできない人は、自分をやはり大切にできないもののようです。大切にす、思いやる。その性格が、成功する人間の鍵だと思ひます。「それを躰として教えなくてはね。社会に出て成長できない人は、机の上に書類を残して帰るんです。翌朝の自分の時間を大切に考えていない」なるほどと思ひます。他人のことへ、そして明日のことへと思ひを馳せられる人は、確かに効率的な仕事ができるものです。自分だけ、いまだけを考えると、都合がよいと考えていても、実は非効率で、ひいては自分のためにもならないことが多いのです。

「朝早く出社する人間は、成長しますよ。誰よりも段取りを整えて仕事にかかれますからね」朝早くきて、先輩の机も雑巾で拭くんだよ。必ず自分のためになる。船井先生に入社直後言われていたことを思ひ出しました。それは、先輩の覚えをよくするためか？そんなことを思ひっていた自分を思ひ出すと、酒が苦くなりました。「先輩の机も拭いてあげる。だって先輩の気分がよければ、その日一日、自分の気分もよいでしょう！？」効率は、思いやりから生まれるのだなあと、少し酔った頭に響きます。この焼酎は美味しいね。そう船井先生が言うと、「そうおっしゃると思ひって、お土産に二本用意しておきました」と「百年の孤独」を出してきたのは、宮崎市民に大人気、日高のおばあちゃんこと日高美恵子会長です。なるほど、本当に思いやりだなと教えられながら、夜は更けていきました。

船井先生は、どんな人間が、仕事のできる人間だと言ひていますか？

()